

# 岩手県住田町における東日本大震災木造応急仮設住宅の建設

[応募者] 氏名：佐藤隆雄 勤務先名：安全・安心な社会創造研究所 勤務先住所：〒330-0856 埼玉県さいたま市大宮区三橋1-1247-4  
 連絡先(勤務先)：TEL(048)646-0551 FAX(048)646-0551 Email: sato@arecss.jp.org

## ●地域性への配慮事項

東日本大震災において、隣接する陸前高田市及び大船渡市の被災者に対し、地元建産材(気仙杉)を活用かつ地元工務店(気仙大工)による戸建ての木造応急仮設住宅を建設したこと。

## ●活動の概要

①事業主体：岩手県住田町

設計者：住田住宅産業(株)

施工者：住田住宅産業(株)

活用した事業制度等：災害救助法

②計画概要について下記事項を参考に記入

建築・延べ床面積：29.8㎡、木造戸建平屋

火石団地13戸、本町団地17戸、中上団地63戸

## ●活動の特色

・計画の目的

以前より地域振興のために、地元建産材・地元工務店を活用した木造応急仮設住宅の開発に取り組んでいた。東日本大震災の発生にあたり、直ちに建設を実施した。住田町は被災自治体ではなかったが、隣接する陸前高田市及び大船渡市の被災に対し、「気仙は一つ」と支援のため建設した。

・伝統工法、伝統文化継承、地場産材活用、地域の活性化、環境共生

接着剤を使用せず、溝加工の柱の間に本実板を落としこむ「落とし込み板壁工法」という伝統的な木造建築工法を用いている。また、伝統的な気仙大工が施工し、冬季の暖房には、建築加工の際に生じる鉋屑や大鋸屑を活用したペレットを使用するストーブを導入するなど、バイオマスエネルギーの利用も視野に入れている。

・特色

この活動を契機に、国交省は、被災3県に対し、地元建産材・地元工務店を活用した応急仮設住宅の建設を公募するよう通達を出し、福島県では約4,000戸の建設に着手した。

これまでの応急仮設住宅はプレハブが基本であったが、木造による応急仮設住宅の供給は、わが国災害対策史上、画期的な道を開いた功績は極めて大きい。



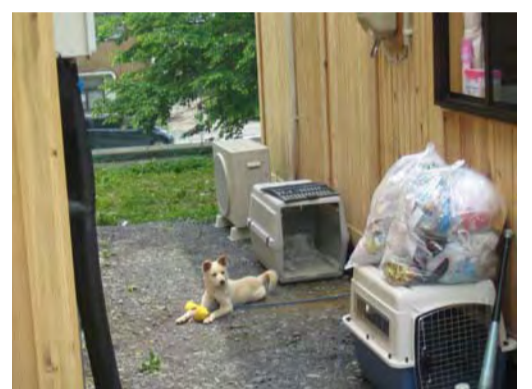
中上団地配置図



中上団地住棟風景



遊具も活用されている



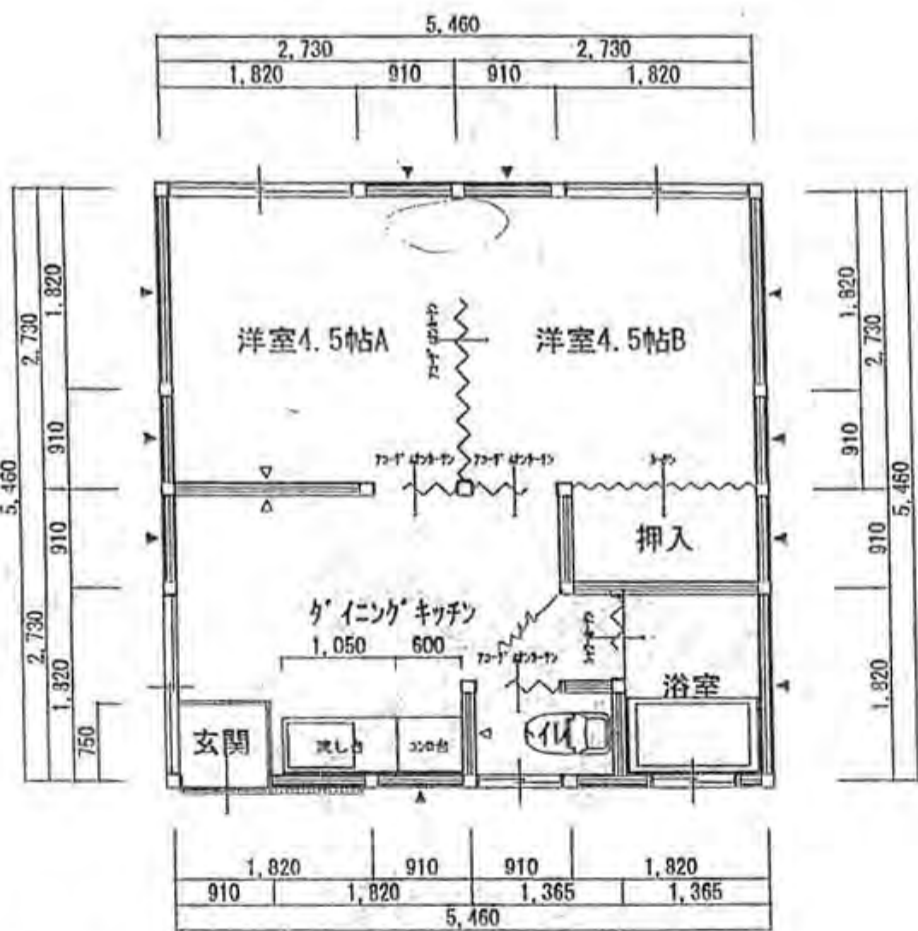
ペットも入居



建設中の様子



木造軸組み・落とし込み壁板工法

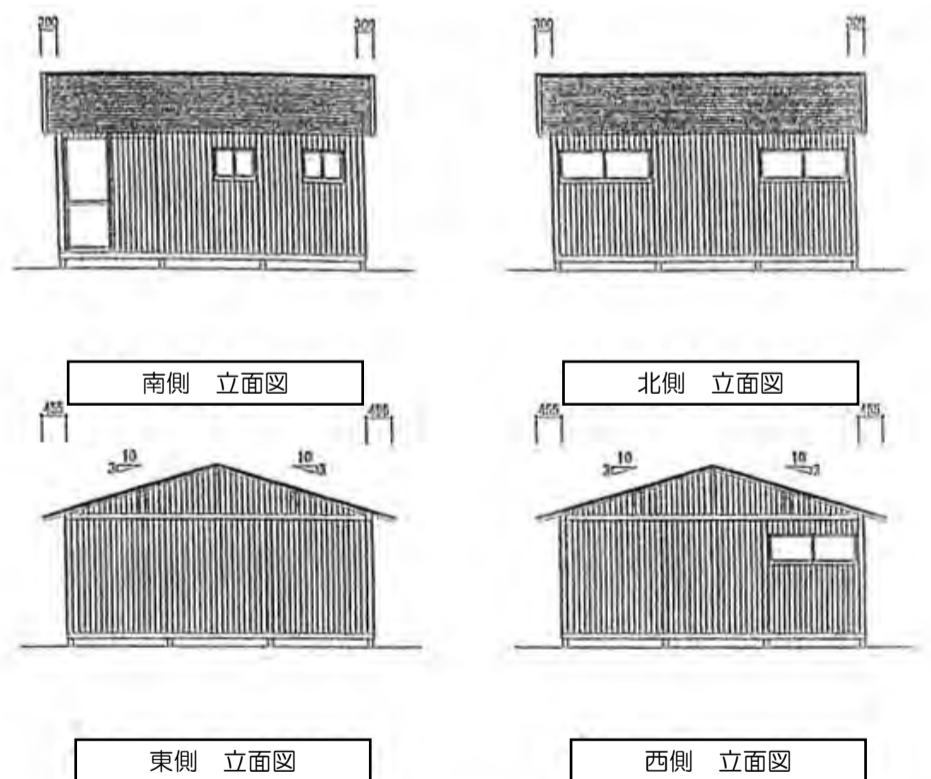


平面図

床面積：29.8116㎡(9.00坪)  
 延床面積：29.8116㎡(9.00坪)

<割合凡例>

- 幅かい 30×90(ポスト) 割合率3.0
- 幅かい 30×90(梁) 割合率1.5
- 落とし込み板壁 t=20(板壁) 割合率0.8



外部	基礎	外壁	軒裏	屋根
杉板・杉板	基礎	杉板	杉板	杉板

内部	柱	梁	床	天井	床下
玄関	杉板 t=30 間わし	杉板 t=30 間わし	杉板 t=30 間わし	杉板 t=30 間わし	杉板 t=30 間わし
キッチン	杉板 t=30 間わし	杉板 t=30 間わし	杉板 t=30 間わし	杉板 t=30 間わし	杉板 t=30 間わし
洋室4.5帖A	杉板 t=30 間わし	杉板 t=30 間わし	杉板 t=30 間わし	杉板 t=30 間わし	杉板 t=30 間わし
洋室4.5帖B	杉板 t=30 間わし	杉板 t=30 間わし	杉板 t=30 間わし	杉板 t=30 間わし	杉板 t=30 間わし
押入	杉板 t=30 間わし	杉板 t=30 間わし	杉板 t=30 間わし	杉板 t=30 間わし	杉板 t=30 間わし
浴室	杉板 t=30 間わし	杉板 t=30 間わし	杉板 t=30 間わし	杉板 t=30 間わし	杉板 t=30 間わし